



設定

- [デフォルト設定 \(1 ページ\)](#)
- [プロキシ設定 \(7 ページ\)](#)
- [バックアップ/復元 \(7 ページ\)](#)

デフォルト設定

A. デフォルト移行設定

ツールで作成されたすべての新しい移行に適用されるデフォルト構成を設定できます。[**デフォルト設定 (Default Settings)**] オプションは、右上隅の [**設定 (Settings)**] の下にあります。このオプションを使用して、変換されたポリシーのデフォルト パスワードを設定/リセットすることもできます。

デフォルトのトランジション設定で定義されたカスタムタグは、すべてのトランジションに適用されます。

設定フィールドのそれぞれの詳細については、下の「**変換の移行設定**」および「**クローンの移行設定**」セクションを参照してください。

B. [変換の移行設定 (Transition Settings for Conversion)]

以下は、IMM 移行ツールの [**移行設定 (Transition Settings)**] ページにある変換オプションです。これらのオプションを設定/設定解除して、遷移の動作を制御できます。

1. ファブリック ポリシーの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。有効にすると、UCS ファブリック構成は同等の Intersight ポリシーに変換されます。
- 有効にすると、以下が変換されます。
 - VLAN / VLAN グループ / VSAN
 - FI ポートの構成

- UCS ドメイン設定 (NTP、DNS、Syslog、SNMP、システム QoS、およびスイッチ制御ポリシー)



(注) ファブリック ポリシーの変換は、UCSM でのみサポートされています。

1. ファブリック ポリシー名

変換後のファブリック ポリシー (VLAN、VSAN、ポート ポリシー) の名前を示します。変換されたポリシーに**手動**の名前を指定するか、変換後に UCS ドメイン名を保持することを選択できます。

2. ファブリック ポリシーの対象組織名

ファブリック ポリシーが属する組織の名前を示します。組織の**手動**名を指定するか、変換後に UCS ドメイン名を保持することを選択できます。

3. 常に個別の VLAN ポリシーを作成する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、ファブリック A と B に対して個別の VLAN ポリシーが作成されます。無効にすると、ツールでファブリック A と B に対して単一または個別の VLAN ポリシーを作成するかどうかを決定します。

4. 常に個別の VSAN ポリシーを作成する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、ファブリック A と B に対して個別の VSAN ポリシーが作成されます。無効にすると、ツールでファブリック A と B に対して単一または個別の VSAN ポリシーを作成するかどうかを決定します。

5. 常に個別のポート ポリシーを作成する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、ファブリック A と B に対して個別のポート ポリシーが作成されます。無効にすると、ツールは、ファブリック A と B に対して単一または個別のポート ポリシーを作成するかどうかを決定します。

6. シャーシ/ラック サーバー ID の保持

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、シャーシ/ラック サーバー ID は、UCSM/Central で使用されているものと同じサーバー ポートに移行後に保持されます。

2. サーバー ポリシーの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、選択したサーバー ポリシー/プール/プロファイル/テンプレートが同等の Intersight ポリシー/プール/プロファイル/テンプレートに変換されます

1. サービス プロファイルの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- サービスプロファイルの変換が有効になっている場合、ユーザーは[**プロファイル/テンプレート (Select Profiles/Templates)**] 手順で変換するプロファイルを選択できます。
- 有効にすると、次の識別子が維持されない場合があります。
 - IP
 - MAC
 - IQN
 - UUID
 - WWN

2. グローバル サービス プロファイルの変換

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、選択したグローバル サービス プロファイルが同等の Intersight サーバー プロファイルに変換されます。



(注) この変換は UCSM にのみ適用されます。

3. [アイデンティティの保存 (Preserve Identities)]

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、UCS から IMM へのサービスプロファイルの変換中に、IP、IQN、MAC、UUID、WWPN、WWNN などの構成アイデンティティが保持されます。

4. ルート組織名

- UCS 組織がマッピングされる Intersight 組織の名前を手動で入力できます。
- または、接続先 Intersight 組織のデフォルトの UCS ドメイン名を選択します。

5. ソース組織パスを Intersight 組織名に保持

- このオプションは、デフォルトで有効です。

- 有効にすると、UCS 組織「root/Org1/Org2」は、宛先の Intersight 組織で「Org1_Org2」という名前になります。
- 無効にすると、UCS 組織「root/Org1/Org2」は、宛先の Intersight 組織で「Org2」という名前になります。

6. vNIC/vHBA オーダーに vCon 配置情報を使用

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、vNIC/vHBA は、ソース vCon に応じて異なる PCIe スロットに静的にマッピングされます。
- vCon any、1: 「PCIe MLOM」、vCon2: 「PCIe スロット 1」、vCon3: 「PCIe スロット 2」および vCon4: 「PCIe スロット 3」。
- 入力を提供し、default マッピングを上書きすることで、vCon を PCIe スロットに手動でマッピングできます。
vCon スロット値でサポートされる範囲は 1 ～ 15 です。
- 無効にすると、vNIC/vHBA は自動 PCIe スロットで設定され、最初の VIC アダプタに解決されます。

7. vNIC/vHBA 順序にホストポート情報を使用 (VIC1300 の場合のみ使用) :

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、vNIC/vHBA は、送信元管理ホストポートの値に対応する 2 つの PCI リンクに配置されます。これは、変換されたプロファイルが VIC 1300 モデルのサーバーに割り当てられている場合にのみ使用する必要があります。
- 無効にすると、すべての vNIC/vHBA が単一の PCI リンクにマッピングされます。

8. 長い組織名 (>17 文字) を自動的に変更する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、17 文字を超える組織名が自動生成された名前に変更されます。これにより、組織名と QoS ポリシーを合わせた長さが 40 文字を超える場合のエラーを防ぎます。

9. 電源ポリシーの変換 (C シリーズ サーバーでは無効にする)

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 電源ポリシーは、Cisco UCS B シリーズおよび Cisco UCS X シリーズ サーバーでサポートされるようになりましたが、Cisco UCS C シリーズ サーバーではサポートされません。Cisco UCS B シリーズおよび Cisco UCS X シリーズ サーバーに割り当てられたプロファイルを変換する場合にのみ、このオプションを有効にします。

10. UCS Central タグの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、プール、ポリシー、およびプロファイル/テンプレートに割り当てられた UCS Central タグが変換され、準備状況レポートの対応する Intersight オブジェクトの「変換された UCS Central タグ」行で簡単に表示できます。



- (注)
- この変換は、UCS Central にのみ適用されます。
 - さまざまなタグ値を持つ UCS Central タグ タイプの重複を Intersight にプッシュすることはできません。これは、Intersight がタグキーの重複を許可していないためです。ただし、最初の発生は Intersight にプッシュされます。

11. UCS Central タグ プレフィックス

IMM 移行ツール、リリース 3.1.1 は、UCS Central タグへのプレフィックスの追加をサポートしています。変換されたタグに**手動**プレフィックスを指定するか、変換後にデフォルトのプレフィックスを選択することができます。



- (注) この変換は、UCS Central にのみ適用されます。

12. サービス プロファイルの関連付けの保持

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、サーバープロファイルは、UCSM/Central で使用されているものと同じサーバー シリアル番号に移行後に事前に割り当てられます。

3. 変換されたオブジェクトに自動的にタグを付ける

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、Intersight オブジェクトは "imm_migration_version": "4.0.1"、"imm_transition_name": "_imm_transition_name_" でタグ付けされます。
- **[+ 新規を追加]** ボタンをクリックし、**キーと値**のペアを入力することで、新しいタグを追加できます。
- 既存のタグは変更および削除できます。
- キーが「imm_migration_version」および「imm_transition_name」のタグは変更できませんが、削除できます。
- すべてのタグには一意のキーが必要ですが、値は複製できます。

- 同じキーと値のペアを持つ重複タグは許可されていません。

4. 既存の Intersight オブジェクトを上書きする

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、同じ名前とタイプのオブジェクトが組織に既に存在する場合、既存の Intersight オブジェクトは上書きされます。無効にすると、既存のオブジェクトは変更されません。

5. 変換されたポリシーのデフォルトパスワード

デフォルトのパスワードは、仮想メディア、iSCSI ブート、IPMI over LANなど変換されている UCS Manager/Central ポリシーで、既存のパスワードの代わりに使用されます。このパスワードは、ツールのインストール中に自動生成されます。このパスワードは、変換されたポリシーが Intersight にプッシュされた後、ユーザーがリセットする必要があります。

6. iSCSI 相互チャップ認証のパスワード

このパスワードは、iSCSI ブート ポリシーの相互 CHAP 認証に使用されます。変換されたポリシーのデフォルトパスワードとは異なる必要があります。

C. クローニングの移行設定

以下は、IMM 移行ツールの [移行設定 (Transition Settings)] ページにあるクローニングオプションです。これらのオプションを設定/設定解除して、遷移の動作を制御できます。

1. 既存の Intersight オブジェクトを上書きする

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、同じ名前とタイプのオブジェクトが送信元組織に既に存在する場合、接続先 Intersight 内の既存のオブジェクトは上書きされます。

2. [Intersight 設定のトリミング (Trim Intersight Settings)]

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、ユーザーグループ、ユーザー、ロールなど、一部の Intersight 設定がクローニング中にトリミングされます。

3. [アイデンティティの保存 (Preserve Identities)]

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、すべての UCS サーバー プロファイルで割り当てられた ID を保持しながら、Intersight アカウントを複製できます。

4. サーバー プロファイルの関連付けの保持

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、複製中にサーバー プロファイルの関連付けが保持されます。

プロキシ設定

IMM 移行ツール 3.1.1 には、デバイス レベルでプロキシ設定を有効または無効にするオプションがあります。[プロキシを使用] トグル ボタンを使用して、各デバイスのプロキシ設定を個別に有効化/無効化できます。デバイスで [プロキシを使用] が有効になっている場合、デバイスへの接続にプロキシ設定が使用されます。

プロキシ設定は、[プロキシ設定] ページで構成できます。

プロキシ設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. 右上隅の歯車アイコンの下にある [プロキシ設定 (Proxy Settings)] をクリックします。
2. [プロキシホスト名 (Proxy Hostname)] または [IP] を入力します
3. プロキシポート番号を入力します。
4. プロキシ設定で認証が必要な場合は、[認証 (Authentication)] を切り替えてオンにするか、手順 7 に進みます。
5. ユーザ名を入力します。
6. パスワードを入力します。
7. [保存 (Save)] をクリックします。

プロキシ設定が保存されます。



- (注)
1. 移行中の場合、プロキシ設定の変更はできません。
 2. [プロキシを使用] トグル ボタンを
 - [デバイス管理] ページでデバイスを追加している間に有効にすることができます。
 - IMM 移行の追加手順で新しいソース UCS デバイス/Intersight アカウントを追加します。

バックアップ/復元

IMM 移行ツール、リリース 3.1.1 は、ツールからデータをバックアップし、ツールの同じインスタンスまたは別のインスタンスに復元する機能を備えています。

バックアップコンテンツを復元するには、次の手順を実行します。

1. 右上隅の歯車アイコンの下にある [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] をクリックします。
2. バックアップ データを暗号化するための秘密キーを入力します。

3. [Download] をクリックします。
データは圧縮ファイルでダウンロードされ、ローカル システムに保存されます。
4. データを復元する必要がある場合は、ツールのインスタンスにログインします。
5. 右上隅の歯車アイコンの下にある[バックアップ/復元 (Backup/Restore)]をクリックします。
6. [復元 (Restore)] タブに移動します。
7. データのバックアップ時に使用したのと同じキーを入力します。
8. バックアップデータを含む、システムにダウンロードされたファイルを参照して選択します。
9. [復元 (Restore)] をクリックします。
ファイルに存在するデータが復元されます。



-
- (注)
- データを復元すると、ツールの既存のデータがすべて削除され、圧縮ファイルに存在するデータに置き換えられます。
 - データは、ツールの下位バージョンから上位バージョンにのみ復元でき、その逆はできません。
 - 移行が進行中の場合は、バックアップ/復元アクションを開始できません。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。